

第16回水先人の人材確保・育成等に関する検討会（議事概要）

日 時：令和2年10月5日(月)13:30～14:30

会議形式：WEB 会議方式

出席者：綾委員、池谷委員、伊藤委員、今津委員、大久保委員、小鹿委員、落合委員（座長）、葛西委員、片岡委員、加藤委員、小山委員、末岡委員、立石委員、中村委員、西本委員、羽原委員、松本委員、村瀬委員、森重委員[代理：（一社）日本船主協会田中常務理事]

【国土交通省】

多門海事局次長、内山海技課長、野見山次席海技試験官、和田海技課企画調整官、成瀬海技課水先業務調整官、平井港湾局計画課港湾計画審査官（オブザーバー）、内田海上保安庁交通部航行安全課長[代理：工藤航行安全企画官]（オブザーバー）

【（一財）海技振興センター】

飯塚理事長、野中常務理事、戸摩常務理事、鈴木技術・研究部長

1. 議事

- (1) モニタリング委員会報告
- (2) その他（水先類似行為の実態調査の結果を受けた今後の対応）

2. 議事概要

(1) モニタリング委員会報告

水先人関係委員からモニタリング委員会報告（資料1）について説明を行った。
主な質疑応答又は意見は次のとおり。

- 水先人会の措置だが、嚴重注意や業務停止なども、本人だけではなく全体に周知すべきではないか。例えば不適切運航等のNo.10は速力過大により停止が困難であった事案だが、船の種類により速力低減が異なるため、会員に対し情報を共有すべきではないか。
→例えば東京湾水先人会では、事案によって、再発防止のため周知すべきと判断したものは文書で会員に周知し、注意喚起を図っている。それ以外は本人に対してのみ注意している。
- 本事例の水先人の年齢は把握しているか。また、事例の概要を見ると、技術的に未熟な事例が目立つ印象を受けるがどうか。
→事例ごとの年齢は把握していない。事例の概要については、船主側から提出された事案の場合、船主側からの提出内容そのままを記載しており、提出を受けて水先側で事案を調査した結果は記載していないことをご理解いただきたい。
- 水先人派遣支援の状況について、水先人がいないという理由で運用が上手く回らないという実態は起きていないと認識しており、各水先人会のご調整に感謝するとともに、今後水先人が少ない時期を迎えることから、引き続き対応をお願いする。
- 前回の「第三次とりまとめ」に際し、船主側委員から、「安全かつ円滑な水先業務の確保」のため各水先人会が改正した水先人会会則の実効性を評価するうえで、安

全性の効果まで掘り下げて評価すべき、との意見があり、具体的な内容については、現在、船主関係者と水先人関係者との間で話し合いが進められている。具体的内容については次回検討会で報告する。

(2) その他

事務局より、その他の議題として、水先類似行為の実態調査の結果を受けた今後の対応について説明を行った。

主な質疑応答又は意見は次のとおり。

- 安全面と後継者確保について今後の対応策が示されており、安全面についてはアドバイスを行うと記載されているが、どの程度の内容をどのようなやり方で行うのか。
また、後継者確保についても、熟知した者による支援の実施と記載されているが、支援の内容について更にブレイクダウンしていく必要がある。今後、対応策の具体化はどのように進めていくのか。
→具体的な対応については、水先人関係者と船主関係者において検討する予定。
- 本検討会としては、今後の具体的な対応策として関係者間の話し合いを元に実施するということで了解した。本検討会での水先類似行為に対する対応は今回で一区切りとする。
- LNG 船を含む危険物船の対応を行っている水先類似行為者の中には、近隣水先人又は、元水先人以外の者が対応している港があり、この扱いについて国の考えをどこかではっきりするべき。現在は、水先類似行為者の技量に問題があるという報告はないが、将来的には技術の担保をどのような体制で行うか、今後検討する必要があると考えている。
また、水先類似行為者になるための要件が各場所で定められているが、その要件は、国が定めた基準ではなく、国が定めた試験に合格しているわけでもないため、技術が担保できているか不安がある。
- 関係者間で話し合っただけで決めた具体的な取り組みの内容によっては、その内容をどのように担保していくかという問題が生じる可能性がある。まずは関係者間で水先類似行為に対する今後の対応の具体化を進める過程で、行政も含めた枠組みの検討や、本検討会で議論すべき問題が出てきた場合は、その段階で事務局と相談のうえ、本検討会で議論していくという方向で進める方向でよろしいか。
→方向性については関係者で相談しつつ、必要に応じ事務局も加わり、具体的な内容を決めていく。議論の中で問題等が発生し検討会で議論すべきと考えた場合は、検討会に諮らうと思う。

全体を通しての主な質疑応答又は意見は次のとおり。

- 日本船主協会田中常務理事より、森重委員のコメントの紹介があった。
「第 1 回の本検討会開催時に海事局長であったが、落合座長を始め、委員の方々の真摯な取り組みによりここまで前進させていただいた。特に第 15 回検討会における第 3 次とりまとめにおいては、皆様の取り組みに感謝したい。今後、水先人の数が少なくなる局面を迎えるため、本検討会は重要な会議だと認識している。引き続き水際の安全のため

にも関係者の方々の協力をお願いしたい。」

次回の検討会は、2021年2月頃を計画しているが、今後、詳細は事務局より各委員と日程調整を行う。

以上